

# 第3学年 国語科学習指導案

日時 令和5年8月31日(木) 5校時

児童 3年2組 24名

指導者

1 単元名 「短歌を楽しもう」(光村図書 3年上 p.36~37, 98~99 3年下 p.32~33, 62~63, 86~87)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、「きせつの言葉」と「短歌を楽しもう」を組み合わせで作った単元である。年間を通して継続的に短歌を創作したり、歌会をしたりすることで、楽しみながら短歌に親しむことができる構成となっている。短歌作品の交流である歌会を行うことで、子どもたちが思いや考えをもつ必然性が生まれるため、主体的に交流し、考えを深めることができる。また、それらの交流によって、一人一人の考えや感じ方に違いがあることに気づいたり、受け入れたりする素地を育むことにもつながる。歌会で扱う作品を学級の子どもの作品にすることで、作品を通して自然とお互いのよさを伝え合うことができるため互いに認め合う学級づくりにも適した教材である。と考える。

(2) 子どもたちについて

子どもたちは3年生になって初めて短歌を知り、4月からこれまでに何度か短歌を創作したり、歌会を経験したりしてきた。

自分の考えを主張し、活発に伝えようとする子どもが多い一方で、自分の思いや考えをもったり、それらを交流したりすることに対して苦手意識をもっている子どももいる。そのため、考えをもったり交流したりすることに必然性をもたせ、意欲的に取り組める活動が求められる。また、主張するだけでなく、どんな考えも受け入れて聴くことの指導も必要である。と考える。

(3) 指導にあたって

本時は、友達の作品のよい所に気付くことで、改めて自分の作品に立ち返り、そのよさを見付けることを目指している。学び合いでは個々の考えをつなげて様々なよさに気付ける瞬間をつくり出したりしていきたい。ICT活用では、ロイロノートを使うことで、容易に全員分の作品に出合わせ、投票結果もすぐに提示できるようにした。結果や作者を知る期待感で楽しみをもちながらも、友達や自分の作品とじっくり向き合う時間を取り、自分なりの考えをもって交流させるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

- (1) 語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能]
- (2) 易しい文語調の短歌を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 [知識及び技能]
- (3) 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- (4) 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- (5) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

【知識・技能】①語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。

②易しい文語調の短歌を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。

【思考・判断・表現】①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。

②「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。

【主体的に学習に取り組む態度】①積極的に自分の短歌のよいところを見付け、今までの学習を生かして、感想や意見を伝え合おうとしている。

4 単元の指導計画(9時間)

時	学習活動	評価の観点
1	短歌の決まりを知り、言葉の調子や響きに親しむ。	【知技】②
2	春をテーマに、短歌を作る。	【知技】①【思判表】①②
3	歌会を通して、友達の短歌や自分の短歌のよさを見付ける。	
4	夏をテーマに、短歌を作る。	【知技】①【思判表】①②
5 本時	歌会を通して、友達の短歌や自分の短歌のよさを見付ける。	
6	秋をテーマに、短歌を作る。	【知技】①【思判表】①②
7	歌会を通して、友達の短歌や自分の短歌のよさを見付ける。	
8	冬をテーマに、短歌を作る。	【知技】①【思判表】① 【態度】①
9	歌会を通して、友達の短歌のよさを見付ける。 今までの短歌をまとめて歌集を作り、自分の短歌のよさを見付ける。	

5 本時の指導 (5 / 9)

(1) 本時の目標と評価規準

本時の目標	評価規準A	評価規準B
歌会を通して感じたことや考えたことを共有し、友達作品や、自分の作品のよさを見付けることができる。	感想や考えをもったり共有したりしながら、友達作品や、自分の作品のよさを見付けて、発表したりノートに書いたりしている。	感想や考えをもったり共有したりしながら、友達作品や、自分の作品のよさを見付けている。

(2) 指導の構想(「つなぐ」視点とICT活用について)

〔教材とつなぐ〕 学び合いの場面では、どこからどのように考えたのか、子どもとテキストをつなぐ。  
 〔他者とつなぐ〕 交流の場面では、友達の考えを共感しながら聴くだけでなく、共通点や相違点を感じながら聴いたり、新たな考えに気付いたりするような聴き方を促すために、自分たちの交流内容に合った色のカードをロイロノートで提出するようにする。他の子どもたちに各ペアの交流内容を共有する際、カードの色を参考に意図的に指名をし、子どもと子どもの考えをつなぐ。これは交流や発表が苦手な子どもが意思表示をする一つの手段でもある。また、カードの色で思考を可視化することで、一人一人の感じ方の違いに気付かせることもねらいとしている。  
 〔自己とつなぐ〕 本時後半には、歌会に提出した自分の作品にもどし、そのよさを考えたり、よりよいものに作り直したりする活動を取り入れている。友達の作品を通して気付いたよさを自分のよさにつなげながら過去の自分と現在の自分をつなげることで、自己とも対話を重ね、学びを深めさせたい。

(3) 展開

段階	学習内容	指導上の留意点 (・支援 ○評価)	準備物 ICT活用	
導入 4分	1. 本時の課題を把握する。	・前時に一人一首提出した短歌作品をもとに、歌会を行うことを確認する。	ノート タブレット	
展開 33分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ㊦ 友達や自分の作品のよい所を見つけよう。                 </div> 2. 友達の作品を読む。 ・友達が作った短歌を読み、お気に入りの一首を決める。 3. 投票する。 ・ロイロノートのアンケート機能を使って、投票を行う。 ・選んだ理由をノートに書く。 4. 友達の作品のよい所を見つけ合う。 ・グループで交流する。 ・全体で交流する。 ・ペアで交流した後、ロイロノートのカードの色で交流の内容を示し、提出する。 { 赤…作品も理由も同じ 青…作品も理由も違う 黄…作品は同じで理由が違う 白…作品は違うが理由は同じ ・全体で交流する。 5. 投票結果を知る。 ・投票結果を全体で確認する。 ・作者を知る。 6. 自分の作品を読む。 ・歌会に提出した自分の作品を読み返す。 7. 自分の作品のよい所を見付ける。 ・見付けたよさをノートに書く。 ・ペアで交流する。 ・全体で交流する。	・学級全員分の短歌をロイロノートに送る。 ・作者を伏せて歌会を行うため、それぞれの作品には、事前に番号を振っておく。 ・投票後、ノートに選んだ理由を書き、書き終わったら作品を読んで待つように促す。 ・よさを見付けるという同じ活動を、グループやペア等、多様な方法で何度も行うことで学びを深める。そのため、小集団での交流は短時間で進行するようにする。 ・全体交流で出された理由を、作品の表現や、これまでの経験等にもどしてつなげていく。 ・自分が選んだ作品だけではなく、友達が選んだ作品についてもよさを考えるようにする。 ・事前に投票結果を把握し、意図的に作品を取り上げ、様々なよさに気付くように促す。 ・友達の考えと比べながら聴くように促す。 ・カードの色によって意図的に指名をし、互いの感じ方の違いに着目させたり、多様な見方や、よさがあることに気付かせたりする。	モニター ロイロノート  ロイロノート (アンケート) ノート  ロイロノート (提出箱)	
	8. 本時の学習を振り返る。 ・ノートに振り返りを書く。 ・ロイロノートで作品を作る。	・上位2～3作品の作者について、発表する。 ・学び合い場面の交流で価値づけたよさを、自分のよさにつなげるように助言する。 ・ペアで自分の作品を見せ合いながら、自分で見付けたよさを交流させる際、互いの作品のよさを伝え合いながら交流するように促す。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 【思判表】	モニター  ロイロノート	
	終末 8分		・終わったら、自分の作品を作り直したり、新たな作品を作ったりするように促す。 ・子どもの振り返りから本時の学習をまとめ、価値づける。	ノート ロイロノート